

# 新潟県 公民館月報

昭和61年7月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川崎町2-9・林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073 又は新潟0-4049】

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部 120円 年共・年価 1,440円】



## 安了寺の大白藤

大白藤は燕市八王寺、真宗光光寺派安了寺(松島秋住)の境内にあつて、幹の回り七メートル余、枝は東西五十二メートル、南北三十一メートルに張り、樹の長さは樹勢盛んなので一メートル近くも高かったところが、現在では三十七センチから五十七センチに落ち、見るからに枯れかゝる。

樹齡はつまらぬが、三百年前後といわれ、白藤の古木は珍しとして、昭和三十三年三月五日、県の天然記念物の指定を受けた。地元の人々のいう「日本一の白藤」もあるが、樹勢ではない。ウィークデーにもカップルや家族連れが訪れ、記念写真を撮ったり、樹の下で書りを楽しんだりしている。満開になると藤は白一色で、こんもり盛り上がるような感じになる。

今年は春先の低温のため、花つきが少し遅れたが、毎時期になると、白藤会が開かれるのをはじめ、地元のカラオケ大会、句会等が開かれるなど、盛況行事も数多い。藤棚には約百個のちようちんも下げられ、夜の藤もまた特別であり、市内・外或いは、県外からも多くの見物客が訪れる。

絵・文 燕市公民館連合会

委員長 本多富一郎



# 全公連総会開催

## 副会長に石井耕一氏留任

六月六日、東京都千代田区の日本都市センターで第27回全国公民館連合会通常総会が開催された。今年から事務局局長会議と切り離して別に行われることになったもの。

総会の議題は、昭和60年度の事業報告と収支決算について、続いて役員改選、昭和61年度の事業計画ならびに収支予算、その他の議案が審議され、それぞれ原案のとおり承認可決された。また、事務局局長会議は六月十三日、東京都千代田区の農林年金会館で開催。総会の報告ならびに情報交換がなされた。

総会議事の中から、主だったものを紹介する。

役員改選では、本県の石井耕一氏(原公連連会長)が副会長に留任。また関フロ代表理事には埼玉原の小高勝次氏が留任となった。

第35回公民館振興大会は、十一月二十八日、東京赤坂プリンスホテルで開催される。

第5次海外社会教育事情調査

総会議事の中から、主だったものを紹介する。

役員改選では、本県の石井耕一氏(原公連連会長)が副会長に留任。また関フロ代表理事には埼玉原の小高勝次氏が留任となった。

第35回公民館振興大会は、十一月二十八日、東京赤坂プリンスホテルで開催される。

第5次海外社会教育事情調査

同の派遣は、十月、十一月ごろに二十日間、欧州五ヶ分国を視察する。事前研修費は全額を公連が負担、航空運賃と滞在費の半額を各協会が補助する。全国で5人の派遣を予定。公民館総合情報制度が年々全国の公民館に浸透しつつあるもようである。ちなみに、昭和59年度60年度の加入件数と掛金の増加のようすは表1のとおり。

〔表1〕

	加入件数		加入掛金	
	昭59年	60年	昭59年	60年
新潟県	163件	158件	589万円	665万円
全国	4,531	4,882	16,304万円	20,218万円

### 方針

国及び地方公共団体ともに、行政、教育多面にわたる活性化が期待される。現在の現況、全公連はもとより都道府県公連を通じてこの付局を認識し、たまたま本年四月臨時総会の第2次答申とも相まって旺盛な活力を以てこれからの生涯学習時代に対処しなければならぬと、この本年は公民館が発足して40周年を迎え、また全公連創設35周年の節目に立ち、期待されている公民館の在り方を、より確かなものにするため、地域に根ざした研究実践と、地域社会の活性化に果たす役割を強力に推進しなければならない。

このため、全公連は、公民館振興中野村連盟と密に連携を密にして、公連組織の拡充強化をはかり、事業活動を効果的に推進する。

### 原点を確かめる

#### 田村達夫

「公民館運動」は、昭和二年七月五日付文部省令で「公民館の設置運営」についてによって始まった。公民館の原点である。

「此処に當時に町村民が打ち集って議論し、生活、上層業上の指導を受けおのの交友を深める場所である。それは謂はば郷土に於ける公民学校、図書館、博物館、公会堂、町村民衆会所、産業指導所などの機能を兼ねた文化教育の機関」であり、青年団婦人会など「各団体が相提携して町村振興の底力を生み出す場所」とされ、狭義の社会教育機関ではなく、総合的機関としての性格が示されている。

二年十一月、東京の第一号として小千谷町公民館が誕生した。また「日本の民主的成長の上をきわめて大切なもの」であるとして新編軍政部は重大関心をもち、最初の一〇〇設置を定めた。左遊都を表彰した。全市町村に設置されたのは七年三月であった。「青年公民館」看板公民館等の俗称が示すように独自の施設を持たないものが相次ぎあつた。

「一言連盟」から早くも四〇年の歳月が経った。「不惑」の年を迎えて、各公民館で館長職員に選挙委を交えて「一言連盟」を改訂することをおすすめる。できたら、当時の文部省社会教育課長寺中作雄氏の「公民館の建設―新しい町村の文化施設―」も併読された。

更に、わが公民館の歴史を振り返り、いまさらためて公民館とはなにか、なぜ公民館が必要なのか、と自問してほしい。

ちなみに、十日町公民館は新憲法実施記念事業として、二年十二月一日に設立された。十一月十日の開館式の席上、中山道次町長は設立の目的を、第一、社会教育機関として、第二、親睦機関として、第三、民主主義の訓練所とする、とのべている。

初心を大切にしたい。

(十日町市博物館長)



先ごろ発表された海防教育 示唆を与えるものとして極めて興味深いところである。

第二答申に 紀に向けての 教育の活性化 への信頼を 高めるための 改革の時代の変化に対応するための改革の教育行政改革の基本方向を主としてかなり具体的な提言がある。中でもこの教育の活性化は、学校教育にも家

庭教育にも社会教育にも多くの生涯学習体系の中において社会や人生に活を入れる中核教育施設と解してよからうか。

次は、学校解放の点である。これは従来の住民に対する学習サレテをこえ、二十世紀に向けて地域の産業振興や民間活力の活用という新しい発想がある。

三つ目は、これほど生涯学習の場である。活性化のためにカワンセン、青年休業、新井戸端会議、手作り弁当等を細かく提示しているが、公民館はこれほどのまじにかかわっていかねば。

四つ目は、これほど生涯学習社会を築くには、生涯学習指導者については何もふれていない。やはり、教育は学校中心にするのであろうか。片手落ちの答申にならないよう注視しよう。

### これからの公民館

#### 藤家 巖



点であるが、従来の学校偏重の風潮を改め、学校・家庭・社会一体(連携)の教育を重視し、合わせて八十年生を二十世紀社会の活力源として教育を考えたといつわけである。これはこれからの公民館は……である。

公民館関係者の闘争と最終答申に期待した。

下越教育事務所 社会教育課長

### 目八目

中山道次町長は設立の目的を、第一、社会教育機関として、第二、親睦機関として、第三、民主主義の訓練所とする、とのべている。

初心を大切にしたい。

(十日町市博物館長)



# すべき事業(1)

## 委員会答申の解説

## 立教大学教授 岡本包治

ある。調査の機会をつかまえて公民館を知らせることが大切なのである。調査とはセールスなのである。事実、いくつかの公民館ではその調査用紙の一部にみずからの事業のPRを盛りこんでいるのである。

### (5) 住民の協力による調査

調査の企画・実施に住民を参画させること。このことによって公民館事業への多くの住民の参画が見込

める。

### (6) 公民館カレンダーの発行

年度内の公民館事業や行事のあらましをカレンダー化して、各戸に配布すること。このカレンダーを見ながら家族内での会話が行われることが少なくない。公民館事業がファミリーでの話題になるという事は、それだけでもう半ば成功といってよいはずである。

## ◇第二構造の事業—学びの機会の提供

### (事業例) 学級講座の開設、各種行事の実施相談事例の展開、施設の個人利用の促進

#### (1) 新規学習者の開発をめざす学級講座

従来からのなじみのない人たちをとくに意識した学級講座の新規開設(とくに男子成人をも含めたもの)。家庭・地域の必要課題(家庭問題、老後問題、婦人問題、自治問題、人権問題など)をとりあげること。さらに開設の単位を居住圏(町会、自治会単位など)にまで拡大した学級講座によって日ごろ参加できない新規参加者を開発すること。一方、高度な学習内容を持った広域の学級講座を開設すること。施設単位の事業という単一発想から脱却することが必要なのである。なお少年期を対象とする学級講座が必要なことはいうまでもない。

#### (2) 地域スポーツ行事の開催

各種行事が必要なことはいうまでもないが、ここでは、とくにスポーツ行事をとりあげよう。みずからの施設としてスポーツ施設を持たない場合も、他施設や場の活用によって実施することは、競技のみでなく、住民が参加をめざす行動であることの視点である。

#### (3) 地域課題にかかわる行事の開催

高齢化問題や青少年問題など、今後の豊かな地域形成に全住民が参加できるような機会づくりをすること。とくに地域の教育力を高める方向での行事の実施が生涯学習時代には求められているのである。

#### (4) 人と人・人と機関を結ぶ相談事業

地域における人のつながりの弱体化から、生活上の悩みを持つ人への相談の必要性はますます高まりつつある。公民館はそうした多くの住民の相談の窓

口として機能することが大切となる。もちろん公民館そのものが対応できる相談の種類や領域は限られている。みずからの公民館で対応できない相談は、その方向での専門家や専門の機関に、相談を持ちこんだ人を紹介・あっせんする態勢を作っておくことが求められる。日ごろからそうした方向の情報を収集しておいて、公民館にさえ行けば何とかするのはないかという信頼を勝ちとりたいものである。

しかし、公民館はただそうした仲介のみでなく、もう一步前に出て、相談を持ちこんだ人と相談に応えた人や機関とが、それを契機にしてつながりを持つように働きかけることを行いたいものである。

#### (5) 個人が気軽に利用できる方策

公民館はなお団体やグループの利用にしか対応しないというイメージが地域に存在する。生涯教育時代は、個人でも利用できる公民館を求めている時代でもある。ロビーを開放するというようなことはもはや常識であるが、さらに一步ふみこんで、ロビーを利用した個人が何らかのグループや事業に参加するようにしむける努力がほしい。

「ちょっと時間があれば、公民館に来てみて下さい。ここで何かをやっていますよ」というキャッチフレーズで、音楽会や講演会・展示会・スポーツ行事などを常時開設しておくことも有効である。またそれが不可能でも一週のうちの日曜日には、何かの行事を開いておいて、そこに参加することをPRすることも現に行われているのである。

# 公民館の選択

## —全公連第五次専門

### 県公民館大会開催地レポート(3)

生涯教育時代の公民館の役割は、単なる知識人や技能人を氾濫させるためのものではなく、新しいコミュニティの形成と人間性の伸長をはかるものでなければならぬ。

このこと(即大会テーマ)をより深く掘りさげるために、当日の指導講師である岡本包治立教大学教授の了解を得て、全公連刊



行の月刊公民館(昭60.5月号)から同氏の論文を一部抜粋して掲載した。7・8月号と2回連続掲載の予定である。

### ◇公民館の必須事業とその構造

(前略) 筆者が生涯学習時代に描く公民館の映像は、公民館が住民の学習要求にのみ従う「よろず屋」でなく、「地域住民の日常的学習要求にこたえながら、とくに新しいコミュニティの形成と人間性の伸長に果たす役割が重視される。」(社会教育審議会答申) 施設であるという前提である。つまり生涯教育時代を、単なる知識人や技能人の氾濫する社会状況とは考えないという立場である。もしそうした状況をつくり出すことが生涯教育の使命ならば、とくに公民館が存在する理由はないのである。単なる学習の場と機会が無限に用意されればそれで事は足りるはずであるからである。

以上のことをふまえながら、生涯学習に対応する公民館の必須事業は四つの構造によって構成される。そしてこれらの諸事業は、それぞれがバラバラでなく、一つの全体構造の部分を構成するものとして位置づけられるものである。いうなれば公民館の全事業がミ一つの流れミとして展開されていくこと

が必要なのである。

現代の公民館事業が求められる機能は、まずみずからおよびみずからの事業を住民に「知らせる」こと。そしてさらに住民が要求しなくとも住民たちに考えてほしいこと、気づいてほしいことを「問題提起」するという機能である。次にそうした働きかけに対応して公民館に来た人たちに「学びの機会を提供する」ことが必須の機能である。次にまた、たとえ公民館に来ないとしても、みずからが個人ないし、集団で学ぶ人たちにその学びを援助する機能が必須となる。そしてまた、学習した人たちが、その成果を地域などに還元することを奨励すること、住民の連帯をつくり出すことへの援助を行い、自治能力の形成による自治活動の推進に中心的な機能を発揮するということである。いまこれを四つの構造として編成すれば次の如くである。以下各構造ごとにとくに今後意図的にとりあげてほしい事業を特記しよう。

### ◇第一構造の事業—知らせる、問題提起

#### (事業例) 広報、展示、調査その他

#### (1) 幅広い学習情報の提供を意図した広報

みずからの公民館事業のみでなく、他の隣接公民館や他施設および他行政および施設の事業をも内包すること。居住圏にとどまらず行動圏内の多くの学習機会の紹介。

#### (2) 受け取る側に立った広報

広報を受け取る人が理解活用できるものとする。高齢者等のために視覚化すること。地図を正確にするなど。

#### (3) 地域課題をアピールする展示

住民の生活の中に横たわることがらで、住民の気づかない課題などをとりあげて訴え、その意識化をはかること。

#### (4) 公民館を売りこむ調査

調査とは単に住民の学習要求や行動を知るためのものではない。調査とは調査主体を調査対象に知らせるという機能を持つものである。調査の機会をつかまえて公民館を知らせるという機能を持つもので



# 中条町中央公民館

## 実践記録リリース

### 働く女性講座

#### 土曜カルチャー大盛況



土曜カルチャー大盛況

〔表1〕昭和61年学習プログラム

期日	学習内容
5月25日	・開講式(パンフラー) ・実習「あなたの胸もとにどう 適なあなた」
6月8日	・講義「女らしい気くばりとマナー」
6月22日	・講義「絵と子どもたち」
7月13日	・実習(木彫り) 「子どもさんの部屋へどうぞ」
7月27日	・講義「今こそ親はたくましく 私の教育レポートから」
8月24日	・実習(テーブルマナー) 「楽しい食べ方と作法」
9月7日	・講義「話し合いのセッション 「ひまわりは太陽の向いて 女性生き方について」
9月21日	・実習(調理)「野菜お薬 レクエリを使って 野菜お薬をつくりましょう」 ・閉講式

土曜カルチャー講座は、働く女性のための講座です。「よき母、よき妻、よき女性」を目標として学習者が増えていきます。今年で四年間続けて開設しているわけですが、官公營をはじめ団体などに勤める女性、とりわけ三〇歳代の女性に好評です。

毎年六月から九月まで、七八回にわたって実施しています。実習と講義を組み合わせる講座に人気を集めるので、なるべく実習のできる内容にするように配慮して

います。また、学習メンバーが毎年新たに替って行くので、学習内容についての話題が口コミを通じて大きく波紋を広げています。

今年の学習プログラムは表一のとおり八回にわたるものです。六年度の学習計画もすでに組んでいます。

講座を成功させるには、何よりも学習メンバーの満足度があるように思われます。その意味で土曜カルチャー講座は、内容面での二、三回もさることながら、講師陣をどのように構成するかも大きなウエイトとなっています。土曜日がこの講座の条件ですので、いろいろと制約のある中で、目指す講師から引き受けてもらえるよう努力しています。

おかげさまで、これまでも担当

(中条町 中央公民館長 中倉誠一記)



熱中ノ作業学習

## プロフィール

新潟市鳥屋野地区公民館

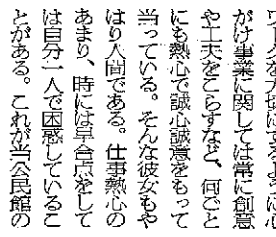
社会教育主事

梶 瑤子さん (48歳)

彼女の毎日は、まず電話から始まる。これは自主学習グループのアドバイザーだ。市民からの相談に対する応待や、三催事業の講師との打合せなどあったりする。美声

彼女がまた、家庭に帰れば小学校区のママさんバレーボールのメンバーの一人で二〇年のキャリアがある。町内の婦人リーダーとしても活躍している。

職歴を要約すると、昭和31年4月市役所の国民健康保険課を振り出し、その後福祉事務所に20年、51年4月から中央公民館へ、55年9月に鳥屋野地区公民館のオープンと共に公民館の事業主事として勤務して現在に至っている。



家庭では、主人と一男一女共に大学生の良き妻良き母である。今は子供の教育の最後の仕上げの時期、さぞ大変であると言っているのだが、ご本人の強言はあまり聞かない。

これからも健康に十分に注意して、持ち前の知識と豊かな経験を生かし、生涯教育の推進役となり、地域住民のためのやさしい指導者・助言者として一層充実向上してほしいと願っている。

新潟市鳥屋野地区公民館長 梶 瑤子

# 切抜帳

公民館報 やまびこ(六月十五日号)から

## みんなで参加しようよ なかよし読書会

- 1. 期間 61年6月～12月  
月1回 日曜日  
午後1時30分～3時  
第1回目 6月29日 午後1時30分
- 2. 会場 村松町公民館講義室
- 3. 対象 小学校低学年とその親等  
(未就学児も可)
- 4. 内容 ○絵本の読み聞かせ  
○レクリエーション  
○茶話  
○映画会等  
○紫陽花の会  
(ボランティア)  
村松町公民館へ  
(58-5082)
- 5. 協力
- 6. 申込



(村松町公民館)

## 近代洋画鑑賞教室

柏崎日報から

(柏崎市中央公民館)

近代洋画の美を鑑賞し、鑑賞しようという趣意が、柏崎美術会の協賛により、柏崎市中央公民館で実施していること紹介されてきた。とくに難解とみられがちで近代洋画の真の美を伝へようというものが、代表的画家十人の評伝とその代表作品の解説、画集やカラスライドによる自作鑑賞を行うもの。年十回にわたり一人の講師が担当している。

日時五月から来年三月まで毎月

講師柏崎美術会会長山田龍男

- モネ→印象派の巨匠
- セザンヌ→近代絵画の父
- ゴッホ→炎の画家
- ロートレック→パリを生きさせた名匠
- モジリアーニ→哀愁のエゴイスト
- ル・ド・パリ
- ルノー→哲学する画壇の巨人
- エゴンシーレーウ・インに敵つた世紀末の美
- ボナール→陶酔の美を極めた天才
- ピカソ→近代絵画の革命家
- シャガール→幻想の交響楽画家

小須戸公民館報(六月十五日号)から

## 生涯学習の中の 視聴覚教育

視聴覚のトピに「社会教育における視聴覚」が取り上げられていた。視聴覚教育は、戦後の一時期映画やスライドが盛んに導入され、娯楽や教育の中心の視聴覚教育として発展してきた。今や情報の洪水、流行の支配という大自由、圧倒された個性喪失の時代。白紙の論議が分を自覚せねばならぬ。一度立ち止まってその情報を客観的に眺めたい。かまへ、自分のものとしていかねばならない。よって、公民館はテレビ・ラジオ等の活用による学習を積極的に行うべきである。更に、図書室の充実を図ることと学習の有用性を主張していた。多くの公民館では視聴覚の一考を要する指針などではあなかった。たいが。

暮しの中に「放送」を取り入れて

「公民館だより」(五月二十五日号)から

(新潟市中央公民館)

### ドキュメント昭和

このテレビ学習の方法は、昭和59年60年度の2か年にわたり、NHKの委嘱を受けて実施した放送利用研究事業の成果によるもの。今年内容は新たに、テレビ市民セミナーとして開設。なおこの「ドキュメント昭和」のほかにも、NHK番組「日曜美術館」も好評継続中とのこと。していかか考える。

学習方法「毎月一回放送される番組を家族で視聴し、そこで出た疑問や、他の人と話してみたいことを記録にとめておきます。その後、公民館に集って講師と一緒に学習を進めます。」

NHK特集「ドキュメント昭和」を教材として学習を進める。学習内容「満60年を迎えた昭和の歴史を振り返り、日本が直面している国際化の波をどう乗り越え、市民生活を潤いのあるものに学習日 5月24日(来年)3月14日(番組放送日の翌週土曜)

## 図書推薦コーナー

良寛の生涯

谷川敏朗著

新潟日報 報道部著

ムラは語る

新潟日報

越後の豪農

朱鷺物語

春山陽一著

良寛の生涯。日本人の心の故郷なのか。地味、名僧、寺、すべてを拾って自然に生きていく。その良寛の一生を遺跡と遺墨を中心に、時代順に記述し、わかりやすくまとめている。写真が豊富で、良寛の遺跡を尋ねる旅のガイドブックとしても最適である。

越後の豪農。新渡戸は「地主王国」といわれ、千町地主が五家も存在した。その他、名主、庄屋の豪華も多く、これら越後の豪農は、広大な邸宅と立派な庭園を残した。本書は、その案内書で、公開と非公開に分け、カラー写真で紹介し、概要、交通、開館時間、観覧料などが記されている。

朱鷺(トキ)は、国際保護鳥であり、新潟県の「県鳥」であるが、一方、「滅びの鳥」とも呼ばれている。この世界的珍鳥の種の保存は、決して生かすしものではない。本書は、五十九年九月から六十年三月まで、朝日新聞新潟版を連載した「朱鷺物語」一人の物語である。

(恒友社) B6判 一三八頁  
一六〇〇円、61年6月発行

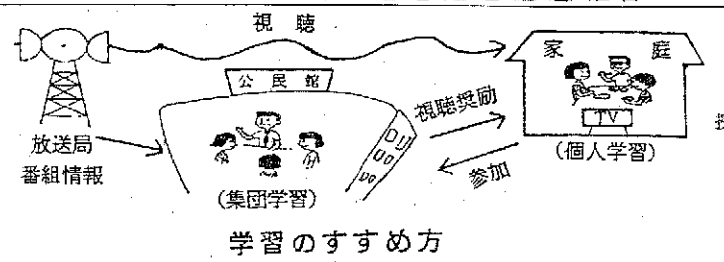
(岩波書店) B6判 一五三頁  
一、一〇〇〇円、60年12月発行

(日報事業社) A5判 九五頁  
一、二〇〇〇円、61年6月発行

(朝日新聞社) B6判 一六七頁  
九五〇〇円、60年12月発行

放送局 番組情報

学習のすすめ方



会場 中央公民館又はNHK新潟放送局  
主任講師 新潟大学農学系助教 渡辺 俊

